

【学生フォーラム】

『はとぼっぼ』の活動報告 ー夢と希望を子どもにとどけるー

岡崎女子短期大学 児童文化研究部 山本真由美、今井桃子、平山小恵

概 要

本報告は、児童文化研究部「はとぼっぼ」での取り組みを紹介する。「はとぼっぼ」では、短期大学で学んだことを活かしながら、地域の子どもたちと交流をおこなっている。しかし、活動は楽しいことばかりではなく、クラブといえども地域とかかわり合いを持っているために社会的な責任がとれない、厳しい評価を受ける時もある。

1. 「はとぼっぼ」の活動内容

正式には児童文化研究部という岡崎女子短期大学のクラブで、40年以上の歴史を持ち、「はとぼっぼ」と呼ばれている。19年度の部員は2年23人、1年14人で構成されている。

「はとぼっぼ」では、幼稚園、保育園、施設などに出かけ、人形劇や着ぐるみ劇の公演、さらに手遊びなどを通して『子どもたちに夢と希望』を目標に取り組んでいる。



(1) 今年度の活動概要

2月28日 岡崎六ッ美子育て支援

主に、乳児と新米母親を対象としたもので、親と子どものコミュニケーションの掛け橋として、具体的な乳児への対応をサポートした。

3月8日 嫩幼稚園のお別れ会参加

お別れ会に参加し、園児を楽しませてきた。父兄も合わせて約100名の参加があり、とても充実したものとなった。

3月20日 刈谷子育て南部支援

ここでも前述の子育て支援と同様、乳児と母親のサポートをしてきた。

3月21日 ありんこ保育所

同様の子育て支援。

5月20日 藤花荘ふれあいまつり

東公園で子どもたちと手遊びなど体を動かして、人との触れ合う楽しさを伝え

た。約 200 名の子ども父兄との出会いがあった。

7月18日 豊橋恵日幼稚園

お誕生会で、お誕生会を通じて人の触れ合い、手遊びの楽しさを伝えて来た。

12月22日 定期公演 マジック・ザ・ワールド

岡崎市せきれいホールでの第37回の定期公演。幼児向けの演劇で、ロンドンの魔法使いのファンタジー話を演じた（2回公演）。



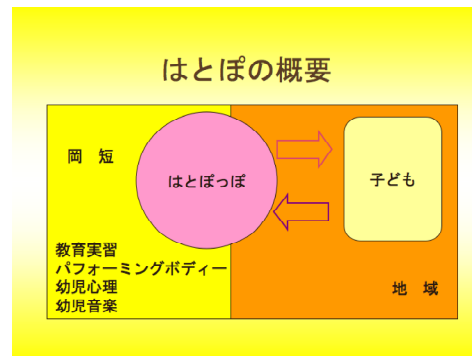
(2) 活動の意義

ここで、「はとぼっぼ」の活動意義について考えてみる。今年度「はとぼっぼ」は、「子どもたちに夢と希望をとどける」ことを目標にして活動している。それは、現在「夢や希望」が必要であるとの考えからである。また、同時にひととの触れ合いの楽しさも伝えていきたいⁱⁱと考えている。

色々と問題の抱えた現代社会において、こうした触れあう楽しさを伝えながら地元の子どもたちに夢や希望を届けることで、子どもたちが健やかに成長する手助けをしていきたいと私たちが考えてのことである。

その一方で、私たちは将来の保育士・幼稚園教諭に必要な保育の基礎を試行錯誤しながら体験を通して学べていると感じている。たとえば、子どもとの活動からは「子ども独特の視点や考え方」、「子どもの行動パターン」を実践的に学べ、これらの体験は将来の保育士・幼稚園教諭として活躍する時の貴重な経験になるといえる。

そして、このクラブ活動での取り組みをきっかけにして、短期大学の学んできた「保育の理論と実践」という言葉が理解出来はじめたと思う。



2. 手作りの活動

「はとぼっぼ」の特徴の一つに手作りの温かさを伝えていくということがある。先輩から学んできた「手作りの技術」を活かして、子どもたちと接するようにしている。

(1) 手作りのおもちゃ

「はとぼっぼ」で使われるおもちゃはすべて「手作り」であり、それは人の温かみを、手作りおもちゃを通して子どもたちに伝えていきたいという思いからである。代表的な一つに、ペーパサートⁱⁱⁱと呼ばれるものがあり、人形劇のように公演などで使う。もちろん地球環境に配

慮して、廃材・使用済みの容器や段ボールなどの利用にも心がけている。

（２）手作りの公演

劇や公演も、すべて手作りで行われている。特に毎年行われる定期公演劇^{iv}では、小物から衣装や大道具、脚本から舞台演出まですべて自分たちの手で作成する。ただ、演技・演出に関しては、プロの小澤寛先生の指導を受け、本格的な演劇を目指している。



3. 今後の課題

細かな改善はいくつか考えられるが、今後の課題としては、つぎの3つがあげられる。しかし、容易に解決するものではないため試行錯誤の取り組みが続くだろう。

（１）アンケートによる、子どもの実態分析

特に定期公演に関しては、毎年行っているアンケートを詳細に分析して、さらに地域の子どものたちの要望も取り入れることが出来るよう活動を行っていく必要があると考えている。もちろん、要望ばかりを追求することは保育とは言えないが、変化する時代に応じた保育が必要であると思う。

（２）クラブの伝統を継承しつつ、新しい試みを取り入れた活動へ

先輩方が残してくれた膨大な資料や活動ノートを検討しつつ、手遊びや劇などの新しい試みをクラブの活動に取り入れながら、40年以上続いている伝統の良さを活かしていきたいと考えている。しかし、それら資料を詳細に検討する時間的な余裕がないといった問題がある。

（３）短期大学の授業とクラブ活動の両立

「はとぼっぼ」はクラブ活動であるが、地域との接点がある以上、社会的な責任があり、一般の方からの幅広い要求も出てきている。それらに答えるためには、十分な企画と練習時間が必要となっており、私たちの短期大学生活のなかで、それら活動の時間をつくることに苦労している。

最後になりましたが、顧問の松永愛子先生、定期公演のご指導をいただいている小澤寛先生にこの場を借りて御礼申し上げます。

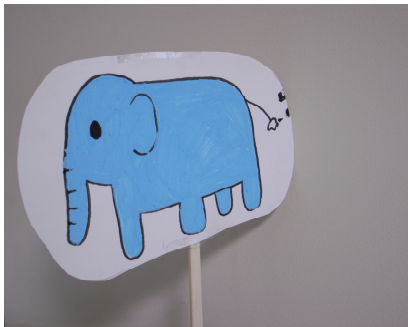
ⁱ 2002 年の世論調査では、「いまの社会の問題点は何か」と言う問いに対して、未成年者の 26.1%は「夢や希望を持ちにくい社会であること」と答えている。

また、同年版の子ども白書では、「子どもと文化をめぐるこの1年」という章で「現実感の喪失とファンタジ」をキーワードに、「千と千尋の神隠し」「ハリー・ポッター」「指阿波物語」の流行を、子どもたちの「切実な願望がファンタジーブームを招来した」と分析した。

これら資料は、アンケート調査対象年齢や調査年度がまちまちであるが、社会現象の一面を十分に示しているものとして、資料として使用した。

ⁱⁱ 花王生活文化研究所2005年の「乳幼児の遊びについての意識と実態」調査では、触れ合いの減少という社会傾向が見られる。「最近1ヵ月に遊んだ上位10の遊び」で「テレビを見る」をはじめ「一人で遊ぶ項目」が上位に来ているためである。私たちは、こうした触れ合いの減少を少しでも改善したいと考え、本クラブの活動に触れ合いの楽しさを取り入れている。

ⁱⁱⁱ 紙に書いた絵を棒で動かす人形（またはモノや動物）。起源は古く、江戸時代であるともいわれている。



^{iv} 昨年度（17年度）は約600名の親子が来場し、アンケートによると7割近くが「楽しめた」という評価をいただいた。